



青森西高校生が 長万部高校訪問 交流の在り方めぐり対話

青森西高校「青西おもてなし隊」がゆく⑥

青森県立青森西高校の「青西おもてなし隊」生徒が10月18日、交流のある北海道長万部高校（長万部町）を初めて訪問し、生徒会総務の生徒たちと意見交換しました。本ニュースレターがきっかけの一つとなり交流が始まって4年目、両校生徒は北海道新幹線が結んだ絆をどうつなげていくか、活発に言葉を交わしていました。

長万部町は北海道新幹線の長万部駅が開設されます。長万部高校生は駅舎のデザインなどの検討の先頭に立ち、2021年から3年続けて新青森駅を視察、青森西高校生との接点が生まれました。2023年9月には長万部高校生13人が青森西高校を訪問しました。

今回の訪問には顧問の清野耕司教諭、成田由希教諭の引率で1年の兼平羽橋さん、宮本悠嗣さん、新谷好花さんが参加し、生徒会長の小山玖生雅さん（2年）、副会長の松井力輝さん（同）、吉村颯太さん（同）、そして日下部樹里さん、黒須遼さん、村上大翔さん（いずれも

1年）の歓待を受けました。

長万部高校生らは学校の特色を「全校生徒39人と小さな学校ですが、地域とのつながりが強い。小さくてもできる、小さいからできる、学校です」と解説しました。続く意見交換では、互いの地域の特色を学び合いながら、「コラボ商品をつくれないうか」「オンラインや対面でどんな交流が続けられるか」といったテーマについて語り合いました。



最初はぎこちない雰囲気では話が途切れがちでしたが、緊張がほぐれると互いに笑顔で活発なトークが繰り広げられました。長万部高校は給食があり、青森西高校生たちも初めての「高校の給食」を味わっていました。

兼平さんは「たくさんの意見を出し合うことができた。また活発な交流ができたらいいいと思いました」、宮本さんは「互いの地域の特産品等を紹介し、長万部だけでなく地元・青森の特産品の新たな発見や魅力に気づくことができた」、新谷さんは「最初は不安でしたが徐々に打ち解けることができ、観光客へのおもてなし法などいろいろな意見を違う角度から知ることができた」と感想を語っていました。

また、長万部高校生徒会の小山会長は「顔を合わせて話ができて仲良くなった。今後もZOOMなどを使って定期的につなっていきたい」と話していました。

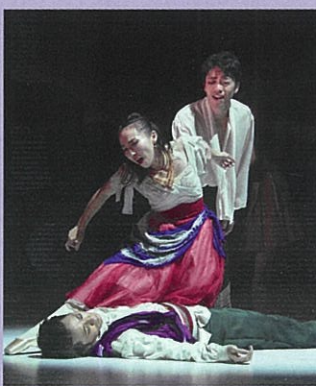
青森県立美術館

バレエ「アレコ」半世紀ぶり よみがえる シャガールの背景画 全4作品に囲まれ

青森県立美術館で11月1日から4日までバレエ「アレコ」が上演されました。青森市出身の世界的ダンサー大川航矢さんが、主人公のロシアの貴族青年アレコを演じ、県内外から訪れた観客らが美しくも悲しい物語の世界を堪能しました。オーディションで選ばれた県内の小学生4人も、大人たちに交じって熱演を繰り広げました。



「アレコ」はロシアの文豪、アレクサンドル・プーシキンの詩を原作とした19世紀初めの物語です。アレコは文明社会に嫌気が差し、各地を移動するロマの団に加わります。やがて首長の娘ゼンフィラと恋に落ちますが、彼女は別の若者に心を移し、怒りに駆られたアレコは2人を殺してしまうという悲劇です。1968年に演じられたのが最後で、今回の公演は半世紀ぶりになります。



青森県立美術館はバレエ「アレコ」のために画家マルク・シャガールが描いた巨大な背景画4幕のうち第1幕と第2幕、第4幕を収蔵しており、アメリカ・フィラデルフィア美術館から借用した第3幕とともに、建物の中心にある「アレコホール」に展示しています。今

回の舞台は第4幕の前に設けられました。美術館でバレエが演じられるのは初めてとい

います。大川さんは原曲のチャイコフスキーのピアノ三重奏曲をオーケストラ版に編曲した音楽に乗せて、躍動的に、時に繊細で内面的にアレコの喜びと悲しみ、苦悩を演じ切り、ゼンフィラ役の勅使河原綾乃さん、ロマの若者を演じた北爪弘史さんとともに、惜しみない拍手が送られました。

公演後のトークで大川さんは「故郷のこの舞台でアレコを演じられたことは、自分にとって格別の体験だった」と振り返っていました。





往年の列車運行めぐりトーク

あomorい鉄道まつり 旧青森駅舎の看板も展示

JR 東日本盛岡支社は、10月14日の「鉄道の日」にちなみ、青森駅前の青函連絡船メモリアルシップ八甲田丸と、ねぶたの家ワ・ラッセ西の広場で10月19、20の両日、「あomorい鉄道まつり」を開きました。

八甲田丸には青森駅の歴史を紹介するパネルや駅名標、列車のヘッドマーク、旧青森駅舎の看板「駅」などが展示されて、市民や鉄道ファンでにぎわいました。また、JR 東日本青森営業統括センターの内藤和夫副長と山口智副長が、自らの鉄道人生を振り返りながら往年の列車運行の様子を語るトークショーを行い、来場者が興味深そうに聴き入っていました。

また、西の広場では「軌陸車」という作業車の体験乗車、工事現場で使われるドローンの操作体験、新幹線パンタ

グラフの部品の展示などが行われ、子どもたちの人気を集めていました。



三内丸山遺跡

企画展「衣食住から探る縄文人の暮らし」

特別史跡・三内丸山遺跡で2025年3月9日（日）まで、企画展「衣食住から探る縄文人の暮らし」が開かれています。遺跡で見つかったさまざまな遺構や出土品を通じて、当時の生活の息遣いが伝わってきます。

「遺跡」といえば土器や石器、そして住居跡・柱跡といった遺構がイメージに浮かびます。三内丸山遺跡ではこれらに加えて、一般の遺跡では保存されにくい動物の骨や角、魚の骨、植物の種子、木や樹皮で作られた道具などが多数出土しています。

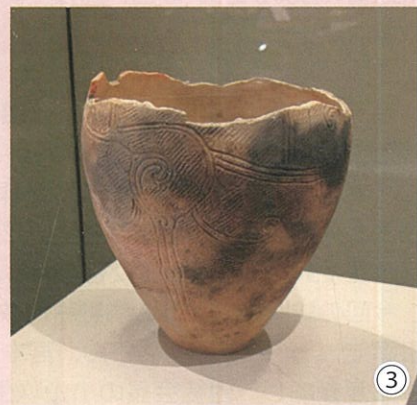
企画展では、鼓状の耳飾りをつけているように見える土偶（写真①）、調理や食料の加工に使われたと考えられる石器や石製品（写真②）、住居の炉に使用されたとみられる土器（写真③）などを通じて、縄文人の「日常」

を浮かび上がらせています。

体験コーナーでは土器や石器に触ったり、編み物を編んだり、縄文を施したり、革を石器で切ってみたりでき

ます。

企画展は遺跡を含む常設展観覧料で見学でき、一般410円、高校・大学生200円、中学生以下は無料です。



青森市立新城中学校・文化祭

折り紙の「金魚ねぶた」を紹介

新青森駅一帯が学区となっている青森市立新城中学校の文化祭が10月12、13の両日、同中学校で開かれました。



同校のボランティア部が新青森駅などで配付している「折り紙金魚ねぶた」制作の様子が

紹介されました。また、同市の舞踏家・福土正一さんが生徒たちとパフォーマンスを繰り広げ、多くの保護者らが拍手を送りました。

新城中学校は新青森駅を拠点の一つにおもてなし活動を展開し、この「金魚ねぶた」の配付などを行っています。また、地元の新城郵便局や新城消防署、新城交番、さらには青森県旅館・ホテル生活衛生同業組合、県のアンテナショップなどにも届け、好評を博しています。

最近では、オーソドックスな赤いバージョンに加えて、



リング「王林」にちなんだ黄色のバージョン、弘前さくらまつりにちなんだピンクのバージョンを製作しています。ピンクの「桜折り紙金魚ねぶた」は、JR弘前駅に飾られるなど、青森県の観光地のイメージ向上に貢献しています。

見学時間 9:00～17:00（入場は閉館の30分前まで）

休館日 毎月第4月曜日（祝日の場合は翌日）、12月30日～1月1日

観覧料 一般410円（330円）／高校・大学生等200円（160円）／中学生以下 無料

※（ ）内は20名以上の団体料金
※特別展は別料金。展示内容により変更する場合があります。
※個人観覧者は、青森県立美術館のチケット表示で割引特典あり。
（詳しくは各施設のチケットカウンターまでお問合せください。）

お問合せ

〒038-0031 青森市三内丸山305
TEL.017-766-8282 / FAX.017-766-2365
URL <https://sannaimaruyama.pref.aomori.jp>



三内丸山遺跡センター

縄文⇄芸術
三内丸山遺跡センター カートマップ 青森県立美術館



青森県立美術館

開館時間 9:30～17:00（入場は16:30まで）

休館日 毎月第2、第4月曜日（祝日の場合はその翌日）
※企画展開催時、展示替等により変更する場合があります。

観覧料 一般700円（560円）／大学生400円（320円）／高校生以下 無料

※（ ）内は20名以上の団体料金
※心身に障がいのある方と付添者1名は無料
※企画展は別料金。

お問合せ

〒038-0021 青森市安田字近野185
TEL.017-783-3000 / FAX.017-783-5244
URL <https://www.aomori-museum.jp>



新青森駅 → 三内丸山遺跡センター：循環バス「ねぶたん号」（東口）18分・300円、タクシー（南口）約10分、徒歩約30分
→ 青森県立美術館：「ねぶたん号」（東口）約11分・300円、タクシー（南口）約10分、徒歩約40分

Facebook ページ
Instagram アカウント

<ネット情報>

Facebook ページとInstagram アカウントを開設し、独自の記事・情報を掲載しています。ご意見をお寄せ

下さい。また、PDF 版を青森大学社会連携センターの Facebook ページに掲載しています。いずれも、右側の QR コードからご覧いただけます。

☆このニュースレターは、青森大学社会学部・榎引研究室が企画・制作し、文責を負っています。お問い合わせ、ご意見等は下記連絡先へお願いします。

〒030-0943 青森市幸畑 2-3-1 青森大学社会学部
榎引素夫 電話 017-738-2001 内線 731
shin-aomori@aomori-u.ac.jp



FB ページ

Instagram



青森大学
社会連携
センター

